

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23593263

研究課題名(和文) 困難が重積する中皮腫に関する看護職向け教育プログラムの開発と評価

研究課題名(英文) Development and Evaluation of an Educational Program for Nurses about Care of Patients with Pleural Mesothelioma in Japan

研究代表者

長松 康子 (NAGAMATSU, Yasuko)

聖路加国際大学・看護学部・准教授

研究者番号：80286707

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円、(間接経費) 1,260,000円

研究成果の概要(和文)：教育システム開発法を用いて看護師向け胸膜中皮腫ケア教育プログラムを開発し、ランダム化比較試験を用いて評価を行った。プログラムは、講義グループワーク、ロールプレイ、グループ討議を含む2日間のメインプログラムと半日のフォローアッププログラムから構成された。看護師188名が研究に参加し、177名が完遂した。独自に開発した測定器具により、看護師の知識、困難感、態度を測定したところ、プログラム後は知識($t=14.03$, $p=0.000$)と態度($t=-3.41$, $p=0.001$)が向上し、困難感($t=-3.41$, $p=0.001$)が低下し、その効果は1ヶ月後まで継続した。

研究成果の概要(英文)：An evaluated an educational program for nurses about caring for patients with malignant pleural mesothelioma in Japan was developed using instructional systems development and evaluated in the randomized controlled study design. The two-day program with a half-day follow-up program included lectures, group work, role-playing and group discussion. 188 nurses participated and 177 completed the study. Evaluation tools were originally developed. The Knowledge score was significantly higher at post-test ($t=14.03$, $p=0.000$) and follow-up test ($t=8.98$, $p=0.000$). Difficulty score was significantly lower at post-test ($t=-3.41$, $p=0.001$) and follow-up test ($t=-3.70$, $p=0.000$). The Attitude score was significantly higher at post-test ($t=7.11$, $p=0.000$) and follow-up test ($t=4.54$, $p=0.000$).

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：中皮腫 看護 教育 インストラクショナルデザイン ナラティブ RCT

1. 研究開始当初の背景

WHOは、年間10万7000人が死亡しているアスベスト関連疾患の撲滅を呼びかけている。我が国で急増している胸膜中皮腫は、アスベストで起こり、完治が難しく、発症後平均15ヶ月で死亡する。胸膜中皮腫患者とその家族は、診断のショック、情報不足、困難な治療選択、侵襲の大きい治療、アスベストを使用してきた社会への怒り、社会保障制度申請の負担、急激な増悪と絶望などの困難に次々と直面する。これらの身体的、心理的、社会的痛みは、霊的な痛みと発展し、ケアをさらに困難にする。また胸膜中皮腫は、様々な原因から起こる痛みや呼吸困難などが重積しておこるため症状コントロールが難しい。胸膜中皮腫のケアには、胸膜中皮腫に関する専門的知識とケアスキルが必要だが、看護師向けの教育プログラムや教材がなかったため、看護師はケアに困難をきたし、十分なケアが行われていなかった。

2. 研究の目的

本研究は、1)看護師向け胸膜中皮腫ケア教育プログラムの開発、2)プログラム評価のための測定用具の開発、3)プログラムの評価を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

- 1) インストラクショナル・システム開発法を用いて、看護師向け胸膜中皮腫ケア教育プログラムの開発を行った。
- 2) 予備研究をもとに「胸膜中皮腫患者のケアに必要な知識尺度(知識尺度)」、「胸膜中皮腫患者のケアにおける困難感尺度(困難感尺度)」、「胸膜中皮腫患者への望ましいケアに対する態度尺度(態度尺度)」を開発した。
- 3) プログラムの効果を検証するため、ランダム化比較試験を行った。プレテストの3つの尺度得点をもとに、参加者を無作為に、プログラムに参加する介入群と小冊子を用い

て自宅学習を行うコントロール群に割りつけ、プログラム前後と1ヶ月後の看護師の知識、困難感及び態度得点を比較した。

表1. 胸膜中皮腫ケア教育プログラム

メインプログラム1日目(8時間)

- 講義「石綿 中皮腫 社会保障制度の知識」
- 講義「胸膜中皮腫の外科療法」
- 講義「胸膜中皮腫の内科療法」
- 胸膜中皮腫患者による語り
- 講義「胸膜中皮腫の症状と緩和ケア」
- 講義「胸膜中皮腫患者と家族の病期毎のニーズ」

メインプログラム2日目(6時間半)

- 講義「在宅ケアとケアコーディネーション」
- 講義・グループワーク「症状マネジメント」
- ロールプレイ
- 講義「看護師のストレスマネジメント」

フォローアップ・プログラム(半日)

- 討議「1カ月間のケアを振り返る」
- 講義「英国と米国における中皮腫ケア」

4. 研究成果

1) 看護師向け胸膜中皮腫ケア教育プログラム

本邦初となる看護師向け胸膜中皮腫ケア教育プログラムを開発した。表1に示すとおり、プログラムは2日間のメインプログラムと半日のフォローアップ・プログラムから構成され、対面式で多様な教授方法を用いて少人数制で実施された。

2) 測定用具

知識尺度 : 10項目(正誤)

困難感尺度 : 10項目(5件法)

態度尺度 : Frommeltの看護師の終末期患者への態度短縮版6項目*に、独自の4項目を加えた10項目(5件法)

3つの尺度は、全て統計的手法を用いて妥当性を検証した。

*中井ら(2006). Frommeltのターミナルケア態度尺度 日本語版(FATCOD-B-J)の因子構造と信頼性の検討 - 尺度翻訳から一般病院での看護師調査、短縮版の作成まで - がん看護, 11(6), 723-729.

3) プログラムの効果

(1) 研究協力者

188名が研究に参加し、177名が最後まで完了した(図1)。

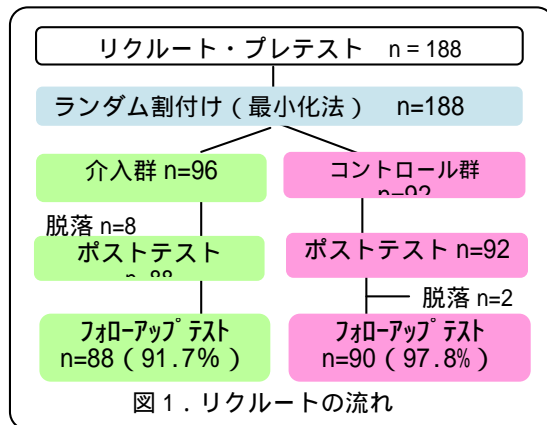


表2に示すとおり、2群間の特性に統計的な差はなく、ほぼ同一の集団と考えられた。

	介入群	コントロール群
臨床経験年数	10.6年	10.1年
勤務部署 呼吸器病棟	71.9%	69.6%
受持患者数 なし 10人未満	29.2% 56.3%	33.7% 50.0%

(2) 看護師の知識、困難感、態度の変化 知識(図2)

プレテストにおける2群の得点差はなかったが、ポストテストでは介入群はコントロール群より有意に得点が高く(t=14.03, p=0.000)、フォローアップ・テストでも同様であった(t=8.98, p=0.000)。

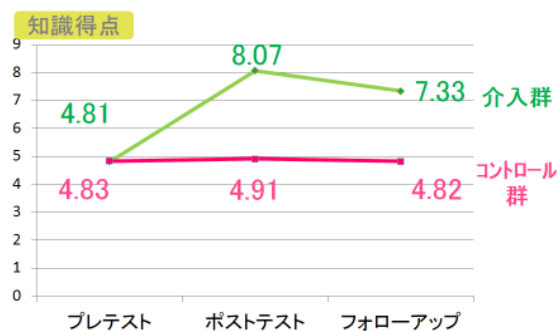


図2. 2群における知識得点の推移

困難感(図3)

プレテストにおける2群の得点差はなかったが、ポストテストでは介入群はコントロール群より有意に得点が低く(t=-3.41, p=0.001)、フォローアップ・テストでも同様であった(t=-3.70, p=0.000)。

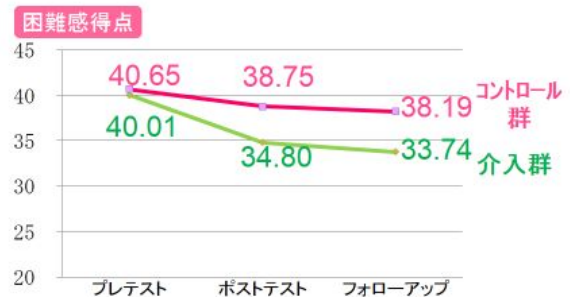


図3. 2群における困難感得点の推移

態度(図4)

プレテストにおける2群の得点差はなかったが、ポストテストでは介入群はコントロール群より有意に得点が高く(t=7.11, p=0.000)、フォローアップ・テストでも同様であった(t=4.54, p=0.000)。

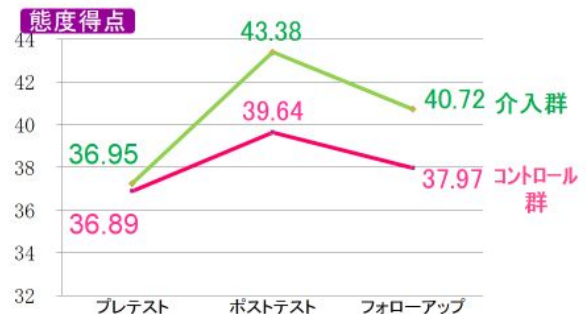


図4. 2群における態度得点の推移

2元配置分散分析の結果、テスト実施時期と介入の有無は、知識、困難感、態度に対する交互作用があったが、2要因共に有意な単純主効果を認めた。

(3) プログラムの改定

参加者からのフィードバックをもとにプログラムの改善を行った。上級者コースとして要望のあった「胸膜中皮腫緩和ケアプログラム」と休みの取りにくい看護師向けの「胸膜

中皮腫ケア1日集中プログラム」を開催した。

(4) 教育者の養成

「胸膜中皮腫ケア教育プログラム」と「胸膜中皮腫緩和ケア教育プログラム」の両者を修了した3名を「胸膜中皮腫ケア1日集中プログラム」のファシリテーターとして登用した。

(5) プログラムの普及

2011年より毎年プログラムを開催し、これまでに計6回、受講者約170名を輩出し、胸膜中皮腫看護師ケアネットワークが構築された。プログラムの内容は、受講者らによって日本全国の医療機関で研修会や勉強会に活用された。さらに、研究者が開設した「看護師のための中皮腫情報サイト」でも内容を無料公開している。

(6) 今後の展望

プログラムの効果が明らかになったことから、今後胸膜中皮腫患者が急増する危険があるアジアにおいて、胸膜中皮腫のケアに携わる看護師支援向けに教育プログラムを開催する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6件)

Yasuko Nagamatsu, Yuji Natori, Haruo Yanai, Shigeko Horiuchi, Impact of a nursing education program about caring for patients in Japan with malignant pleural mesothelioma on nurses' knowledge, difficulties and attitude: A randomized control trial, Nurse Education Today, 査読有、34、2014、1087-1093、
<http://dx.doi.org/10.1016/j.nedt>.

長松 康子、英国から学ぶ日本の中皮腫ケア、21世紀倫理創成研究、査読無、第7号、2014、50 - 58、

www.lit.kobe-u.ac.jp/ethics/research/JIE.html

長松 康子、アスベスト問題と中皮腫の緩和ケア2 - 英国の経験を日本のケアに活かすには -、緩和ケア、査読無、VOL.23, No.5、2013、382 - 386、
<http://www1.tcn-catv.ne.jp/seikaisha/>

長松 康子、アスベスト問題と中皮腫の緩和ケア1、- 疾患の特性・患者の状況・ケアの工夫 -、緩和ケア、査読無、VOL.23, No.4、2013、306 - 311、
<http://www1.tcn-catv.ne.jp/seikaisha/>

長松 康子、堀内 成子、名取、雄司、胸膜中皮腫患者のたどる経過と直面する困難、ヒューマンケア研究、査読有、12巻 2号、2012、69 - 81、
<http://www.j-hc.jp/>

長松 康子、堀内 成子、名取、雄司、胸膜中皮腫患者のケアにおける看護師の困難、ヒューマンケア研究、査読有、13巻 1号、2012、40 - 52、
<http://www.j-hc.jp/>

〔学会発表〕(計 6件)

うち招待講演(計1件)

長松 康子、英国から学ぶ日本の中皮腫ケア、学術講演会「アスベスト問題の現在」 - 社会と医療 - (招待講演)、2013年11月23日、神戸大学・出光佐三記念六甲台講堂

長松 康子、看護師向け胸膜中皮腫ケア教育プログラムの開発と実施、第20回石綿・中皮腫研究会、2013年9月28日、(公財)がん研究会がん研究所・吉田講堂

長松 康子、看護師の困難に対応した中皮腫情報サイトの開発 - コンテンツ開発を中心に -、第17回聖路加看護学会学術大会、2012年9月22日、聖路加看護大学・アリス C.セントジョン メモリアルホール

Yasuko Nagamatsu, Development of an Educational Program about Nursing Care Of Patients with Pleural Mesothelioma In Japan, The 11th International Conference of the International Mesothelioma Interest Group, September 12~, 2012. U.S.A・Boston

長松 康子、効果の少ない化学療法を選択せず、病を受容した胸膜中皮腫患者、日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第14回大会、2012年7月15日～2012年7月16日、筑波大学東京キャンパス文京校舎

Yasuko Nagamatsu、Access to the Asbestos Hazard Warning Information Site for Children and Parents、The 9th International Conference with the Global Network of WHO、July 1st, 2012, Kobe

〔図書〕(計 1件)

長松 康子、一般社団法人 日本労務研究会、改訂版 アスベスト関連疾患早期発見・診断の手引き - 中皮腫を正しく診断するために -、2013、95 (72 - 76)

〔その他〕

ホームページ等



看護師のための中皮腫情報サイト

<http://meso-n.umin.jp/index.html>



FREA こどもと大人のためのアスベスト情報サイト

<http://www.whiteandpeach.jp/frea.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長松 康子 (NAGAMATSU, Yasuko)
聖路加国際大学・看護学部・准教授
研究者番号：80286707

(2) 研究分担者

佐居 由美 (SAKYO, Yumi)
聖路加国際大学・看護学部・准教授
研究者番号：10297070

田代 真理 (TASHIRO, Mari)
聖路加国際大学・看護学部・助教
研究者番号：40584173
(平成23、24年度)

(3) 連携研究者

柳井 晴夫 (YANAI, Haruo)
聖路加国際大学・看護学部・教授
研究者番号：60010055

浅沼 茂 (ASANUMA, Shigeru)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：30184146

矢ヶ崎 香 (YAGASAKI, Kaori)
慶應義塾大学・看護学部・助教
研究者番号：80459247

(4) 研究協力者

名取 雄司 (NATORI, Yuji)
ひらの亀戸ひまわり診療所

中山 祐紀子 (NAKAYAMA, Yukiko)
越川病院